

「チームとしての学校」による学力向上の取組

厚沢部町立厚沢部小学校 主幹教諭 高田 尚哉

【はじめに】

本校は児童数107名、教職員24名、学級数11学級で、管内では比較的規模の大きい学校である。しかし、町の過疎化の進行に伴い、本校でも児童数の減少傾向が続いている。学力に関しては、都市部と地方の学力差や地方のハンデ等々が言われている。本校では、「できない理由」よりも、「できるようになるための手立て」に目を向けることを大事にした。何よりも目の前の子どもたちの「生きる力」が醸成され、しっかりと自分の未来に向かって歩いていくことができるよう、ここ数年、「学力向上」を大きな柱に据えて様々な取組を行ってきた。

1 チームとしての学校の取組

(1) 学校経営方針を柱に

「学校力」を高めることが「学力」を高める大きな力になると捉えた。まず、学校長の学校経営方針がより浸透し、学級経営や分掌経営においても常に意識しながら取り組まれるように図った。そのために、学級経営計画の様式を大幅に変更した。従来、「学習面、生活面、健康面」の項目ごとに「学級経営の方針」を記載していた部分を「学校経営方針とリンクした学級経営方針」を記入することとした。学校経営方針の中から、特に学級経営に係わる内容についてピックアップし、それらについて担任が検討し、学級経営の方針を立てるというスタイルである。

この取組により、学級という狭い視野から、「学校として」という広い視野を持ちながらの学級経営に変わってきた。また、分掌経営等においても同様に学校経営方針が常に意識されるようになるなど、「学校力」の向上につながっている。

(2) 厚沢部小学校スタンダードを軸に

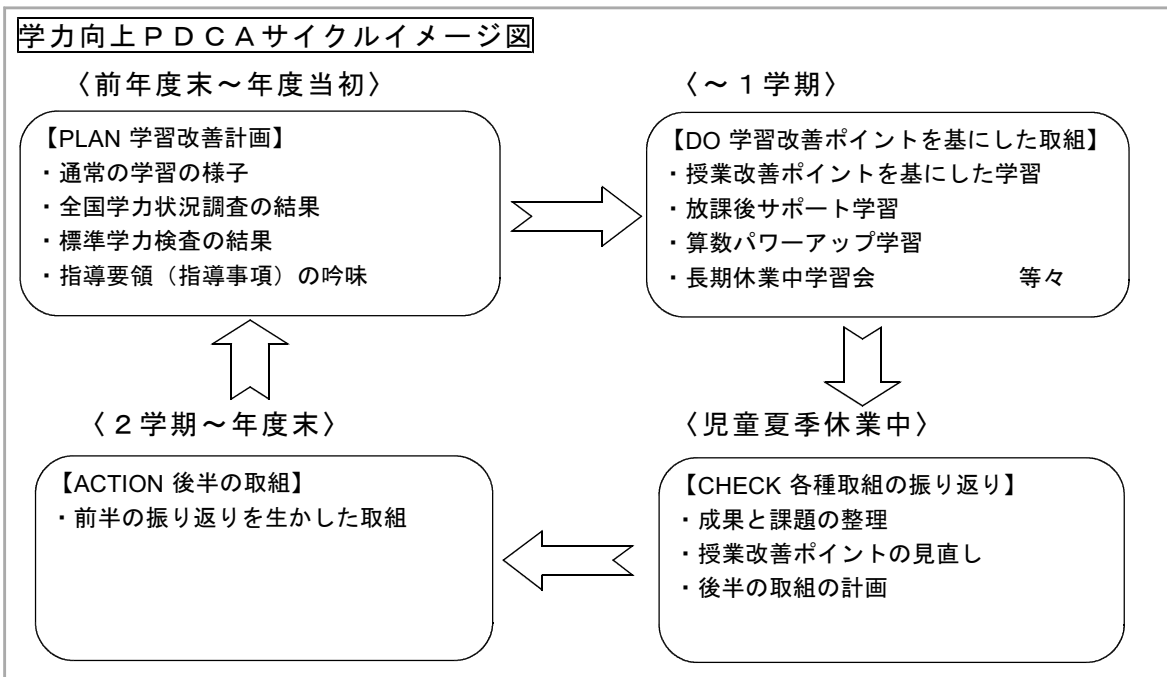
生活面や学習面等、学校としての共通の取組事項を「厚沢部小学校スタンダード」として整理した。例えば、机上への筆記用具を置く場所や宿題の出し方等、従来は担任裁量で行っていたことを、学校の方針として明確化した。これにより、児童が担任のやり方に合わせるのではなく、学校としてのやり方に沿って担任も児童も学校生活に臨むようになった。

基本的な学習スタイルが確立されたことより、児童はより集中して学習に取り組むことができるようになった。また、担任のみならず、専科指導者や補欠指導者も共通した学習スタイルを踏襲することで、常に安定した学習環境を提供することができるようになった。

2 学力向上のための具体的な取組

(1) 学力向上に向けたPDCAサイクルを意識して

本校では、学力向上に向けて様々な取組を行っている。どれも、各種調査の結果等、根拠に基づいて取組指針を立てた上で行っている。イメージ図のようにPDCAサイクルを意識しながら取り組んでいる。現状の吟味とそれに基づいた取組方針をしっかりと立てることで、指導の内容や仕方が明確になり、大きな学習効果につながっている。



(2) 授業改善ポイントを中心に据えて

各種調査等から得られた児童の弱点部分の克服を目指して整理したものが授業改善ポイントである。現在は、国語、算数、理科の3教科について整理し取り組んでいる。授業ではこのポイントを意識しながら指導している。前述の3教科以外の授業においても活用できるポイントは積極的に取り入れて指導に当たっている。

また、授業だけでなく、放課後学習や宿題等、授業外の取組においても授業改善ポイントを基にした課題を設定するなど、授業改善ポイントは学習指導全体の中心となっている。

～授業改善ポイント（国語・算数）～

<p>～国語授業改善ポイント～</p> <ol style="list-style-type: none"> ①引用して文章を書く学習を行う。 ②条件を与えて文章を書く学習を行う。 (〇字以内で、□□の言葉を使って) ③事実と感想、意見を区別して書く学習を行う。 ④優れた叙述について自分の考えをまとめる学習を行う。 	<p>～算数授業改善ポイント～</p> <ol style="list-style-type: none"> ①式の意味を書く学習を行う。 (なぜ、□÷〇という式になるのか) ②条件を与えて文章を書く学習を行う。 (〇〇の言葉や□□の数を使って) ③「数量関係」(表とグラフ、百分率)に時間をかけて指導し学期末に復習する。 ④百分率の問題では、2つの数直線に表す学習を行う。
--	---

【終わりに】

学力向上に関して、前年度までは教務主任として各種取組の推進や各分掌の連絡調整等を行ってきた。今年度は主幹教諭として学校長の学校経営方針の具現化により寄与することを柱にして業務に臨んできた。そのために、より方針を理解するように心がけた上で、学校長、教頭の指導助言を受けながら、各分掌が十分に機能し学力向上が図られるように働きかけてきた。

現在、主幹教諭として校務の一部の整理とともに授業を担当している。そのため、児童の学力状況についても教諭と同じ目線で把握しやすく、各種取組に生かすことができる。今後も、広い視野で学校全体を見渡しながらかつて皆を紡ぐ役割を発揮することで、「チームとしての学校」をより充実させ、学力向上を図っていきたい。